# ゼミノート #6

## Basic of Stacks

#### 七条彰紀

#### 2018年12月12日

### 目次

1		Definition : Stack / Prestack	1
2		Example : Stack	2
3		Proposition : Stack	4
	以下,	特に改めて指定がなければ $\mathbf{C}$ :: site, $\pi$ : $\mathcal{F} \to \mathbf{C}$ :: fibered category を考える.	

## 1 Definition: Stack / Prestack

#### 定義 1.1 (Prestack, Stack)

関手  $\epsilon_{\mathcal{U}}$ :  $\mathcal{F}(U) \to \mathcal{F}(\mathcal{U})$  を用いて以下のように定義する.

- (i) 任意の  $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} \in \mathrm{Cov}(U)$  について  $\epsilon_{\mathcal{U}}$  :: fully faithfull である時, fibered category  $\mathcal{F} \to \mathbf{C}$  は prestack である, という.
- (ii) 任意の  $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} \in \mathrm{Cov}(U)$  について  $\epsilon_{\mathcal{U}}$  :: equivalence である時, fibered category  $\mathcal{F} \to \mathbf{C}$  は stack である, という.

(pre)stacks の間の射は、fibered category としての射である.

#### 注意 1.2

prestack の定義は以下のように言い換えられる: 任意の  $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} = \{\phi_i \colon U_i \to U\} \in \mathrm{Cov}(U)$  をとる. さらに  $\xi, \eta \in \mathcal{F}(U)$  をとり、 $\epsilon_U$  による像

$$(\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\}), (\{\eta_i\}, \{\tau_{ij}\}) \in \mathcal{F}(\mathcal{U})$$

を考える.  $\{\alpha_i\}$ :  $\epsilon_{\mathcal{U}}(\xi) \to \epsilon_{\mathcal{U}}(\xi)$  について, $\mathcal{F}(U)$  の射  $\alpha$ :  $\xi \to \eta$  が一意に存在し, $\alpha_i = (\phi_i)^*\alpha$ ( $\iff \{\alpha_i\} = \epsilon_{\mathcal{U}}(\alpha)$ )となる.

標語的に言えば、prestack は「貼り合わせられる射を持つ psuedo-functor」となる。同型射の貼り合わせは同型射であるから、prestack は「貼り合わせが(存在すれば)一意な対象を持つ psuedo-functor」である。

#### 注意 1.3

このノートでは、fiber が条件を満たす fibered category として (pre)stack は定義されている (fiber を用いずに (pre)stack を定義することも出来るが、今回は採用しなかった). なので形式上、(pre)stack は fibered category を経由せず、特別な psuedo-functor として定義できる. しかし実際にそのように定義されることは少ない.

では psuedo-functor として定義しない積極的な理由はと言うと、実用上、元の fibered category にも言及 する場合が多いからであると思われる. fiber だけでなく元の fibered category に言及する理由については、このセミナーのノート session 4.5  $^{\dagger 1}$ , 注意 2.8 を参考にして欲しい.

#### 定義 1.4 (Sub(pre)stack)

stack ::  $\pi$ :  $\mathcal{F} \to \mathbf{C}$  の sub(pre)stack とは, $\mathcal{F}$  の部分圏  $\mathcal{G}$  であって, $\pi$  と包含関手の合成  $\mathcal{G} \hookrightarrow \mathcal{F} \xrightarrow{\pi} \mathbf{C}$  が fibration であり,さらにその fiber が (pre)stack であるもの.

## 2 Example : Stack

#### 命題 **2.1** ([1] Prop4.9)

- (i) separated presheaf of sets is a prestack.
- (ii) sheaf of sets is a stack.

(証明).  $\mathbf{C}$  :: site,  $\mathcal{F}$ :  $\mathbf{C}^{op} \to \mathbf{Sets}$  :: presheaf とする.  $U \in \mathbf{C}, \mathcal{U} = \{U_i \to U\} \in \mathrm{Cov}(U)$  を任意に取る.

今,圏  $\mathcal{F}(U)$ 、 $\mathcal{F}(\mathcal{U})$  は集合(離散圏)である.なので関手  $\epsilon_{\mathcal{U}}$ :  $\mathcal{F}(U)$  →  $\mathcal{F}(\mathcal{U})$  は<u>写像</u>である.さらに射  $\sigma_{ij}$  も恒等射しかないから, $\mathcal{F}(\mathcal{U})$  の対象は,任意の i,j について  $\xi_i|_{U_{ij}}=\xi_j|_{U_{ij}}$  を満たす  $\xi_i\in\mathcal{F}(U_i)$  の族  $\{\xi_i\}_i$  であると考えて良い.このセミナーノートの session3 の記号を用いれば, $\mathcal{F}(\mathcal{U})=H^0(\mathcal{U},\mathcal{F})$  ということに成る.

二つのデータ  $\{\xi_i\}$ ,  $\{\eta_i\}$  の間の射もやはり恒等射しかないから,「関手  $\epsilon_{\mathcal{U}}$  が fully faithful である」という仮定は「写像  $\epsilon_{\mathcal{U}}$  が単射である」と言い換えられる.これはすなわち, $\mathcal{F}$  が separated presheaf であるということである.

「関手  $\epsilon_U$  が essentially surjective である」という仮定は「写像  $\epsilon_U$  が全射である」と言い換えられるから。  $\epsilon_U$  が equivalence であることは  $F(U) = H^0(U, F)$  と F(U) の間に全単射が存在するということである.これはすなわち,F(U) が sheaf であるということである.

#### 注意 2.2

この命題で分かるとおり、prestack は presheaf の抽象化ではなく、separated presheaf の抽象化である。そうすると、我々は psuedo-functor  $\mathbf{B}^{op} \to \mathbf{Cat}$  を prestack と呼び、今 prestack と呼んでいるものは separated prestack と呼ぶべきなのかも知れない。我々がそうしないのは、後に定義される "separated stack"との混乱を避けるためである。

以下の二つの例は後にセミナーでも証明を扱う.

#### 例 2.3

<sup>†</sup>¹ URL: https://github.com/ShitijyouA/MathNotes/blob/master/AlgebraicStacks/session4\_5\_FiberedCategorie sContinued.pdf

 $X \in \mathbb{C}$  に対し、圏 Shv/X を以下のように定める.

Objects.

X への射を持つような  $\mathbb{C}$  の対象 :: U と, U 上の sheaf ::  $\mathcal{U}$  の組.

Arrows.

射  $(U, \mathcal{U}) \to (V, \mathcal{V})$  は、 $\mathbf{C}$  の射  $f: U \to V$  と、morphism of sheaves on  $V:: f^{\#}: \mathcal{V} \to f_*\mathcal{U}$  の組.

この時, fibered category ::  $\mathbf{Shv}/X \to \mathbf{C}/X$ ;  $(U,\mathcal{U}) \mapsto U$  は stack である. この例で考える sheaf を quasi-coherent sheaf に制限してて得られる fibered category ::  $\mathbf{QCoh}/X \to \mathbf{C}/X$  も stack である. この二 つの例については、このセミナーでも後に証明を扱う.

#### 例 2.4

 $X \in \mathbf{Sch}$  に対し、圏  $\mathbf{QCoh}/X$  を以下のように定める.

Objects.

 $\operatorname{Fpqc}(X)$  †2の対象 :: U と,U 上の sheaf (on fpqc topology)::  $\mathcal{U}$  の組.

Arrows.

射  $(U, \mathcal{U}) \to (V, \mathcal{V})$  は、 $\mathbf{C}$  の射  $f: U \to V$  と、morphism of sheaves on  $V:: f^{\#}: \mathcal{V} \to f_*\mathcal{U}$  の組.

この時, fibered category ::  $\mathbf{QCoh}/X \to \mathbf{C}/X$ ;  $(U, \mathcal{U}) \mapsto U$  は stack である.

#### 例 2.5 ([2] 4.4.1)

以下で定まる fibered category は stack である.

$$\begin{cases} \text{pair of scheme over } S :: Y \\ \text{and closed imm. } W \hookrightarrow Y \end{cases} \rightarrow \text{Fppf}(S)$$

$$(Y, W \hookrightarrow Y) \qquad \mapsto \qquad Y$$

### 例 2.6 ([2] 4.4.4)

以下で定まる fibered category は stack である.

$$\begin{cases} \text{pair of scheme over } S :: Y \\ \text{and open imm. } W \hookrightarrow Y \end{cases} \rightarrow \text{Fppf}(S)$$

$$(Y, W \hookrightarrow Y) \qquad \mapsto \qquad Y$$

以下の二つの例は後に一般化される.

#### 例 2.7 ([1] §4.3.1)

arrow category ::  $\mathbf{Sch}^{\rightarrow}$  の対象を affine morphism に制限したものを圏  $\mathbf{Aff}$  とする. 以下で定まる fibered category は stack である.

$$\begin{array}{ccc} \mathbf{Aff} & \to & \mathrm{Fppf}(\mathrm{Spec}\,\mathbb{Z}) \\ [X \to Y] & \mapsto & Y \end{array}$$

 $<sup>^{\</sup>dagger 2}$  圏 **Sch**/X に fpqc topology を備えたもの.

#### 例 2.8 ([2] 4.4.15)

quasi-compact open imbedding の後に affine morphism を合成した射のことを quasi-affine morphism という. arrow category ::  $\mathbf{Sch}^{\rightarrow}$  の対象を quasi-affine morphism に制限したものを  $\mathbf{QAff}$  とする. 以下で定まる fibered category は stack である.

$$\mathbf{QAff} \quad \to \quad \mathrm{Fppf}(\mathrm{Spec}\,\mathbb{Z})$$
$$[X \to Y] \quad \mapsto \qquad Y$$

## 3 Proposition : Stack

#### 命題 **3.1** ([2] Prop4.12)

二つの equivalent な fibered category があり、かつ一方が stack ならば、もう一方も stack である.

(証明).  $\mathcal{F}, \mathcal{G}$  :: fibered categories over  $\mathbf{C}$  とし, $F: \mathcal{F} \to \mathcal{G}$  :: morphism of fibered categories とする. この時 cover of  $U \in \mathbf{C}$  ::  $\mathcal{U} = \{U_i \to U\}$  について  $F_{\mathcal{U}}$  を定義する.

$$F_{\mathcal{U}}$$
:  $\mathcal{F}(\mathcal{U}) \rightarrow \mathcal{G}(\mathcal{U})$   
**Objects**:  $(\{\xi_i\}, \{\sigma_{ij}\}) \mapsto (\{F\xi_i\}, \{F\sigma_{ij}\})$   
**Arrows**:  $\{\alpha_i\} \mapsto \{F\alpha_i\}$ 

更に二つの射  $F,G: \mathcal{F} \to \mathcal{G}$  とその間の base-preserving natural transformation ::  $\rho: F \to G$  に対し,  $\rho_{\mathcal{U}}: F_{\mathcal{U}} \to G_{\mathcal{U}}$  を次のように定義する.

$$(\rho_{\mathcal{U}})_{(\{\xi_i\},\{\sigma_{i,i}\})} = \{\rho_{\xi_i}\}.$$

以上から, F が equivalence ならば  $F_{\mathcal{U}}$  も quivalence である. したがって以下の commutative diagram of weak 2-category  $^{\dagger 3}$  が得られる.

$$\begin{array}{ccc} \mathcal{F}(U) \stackrel{\epsilon_{\mathcal{U}}}{\longrightarrow} \mathcal{F}(\mathcal{U}) \\ \downarrow^{F} & & \downarrow^{F_{\mathcal{U}}} \\ \mathcal{G}(U) \stackrel{\epsilon_{\mathcal{U}}}{\longrightarrow} \mathcal{F}(\mathcal{U}) \end{array}$$

この可換図式から, 主張が得られる.

#### 命題 **3.2** ([2] Exc 4.I)

 $\mathcal{F},\mathcal{F}'$  :: stack on  $\mathbf{C},f\colon\mathcal{F}\to\mathcal{F}'$  :: morphism of stacks とする. f :: isomorphism は以下の 2 条件が成立することと同値.

- (a) 任意の  $X \in \mathbb{C}$  について、fiber の間の射  $f_X : \mathcal{F}(X) \to \mathcal{F}'(X)$  は fully-faithful.
- (b) 任意の  $X \in \mathbb{C}$  と  $x \in \mathcal{F}'(X)$  について, covering of  $X :: \{\phi_i : X_i \to X\} \in \text{Cov}(X)$  が存在し、全ての x の pullback  $:: \phi_i^* x \in \mathcal{F}'(X_i)$  が  $\mathcal{F}(X_i)$  の essential image に属す.

<sup>†3</sup> 射の合成の間に natural isomorphism が存在するという意味で可換.

#### 補題 3.3

site ::  $\mathbf{C}$  を、空集合の cover として空集合を持つ ( $\emptyset \in \mathrm{Cov}(\emptyset)$ ) ものとする.  $\pi \colon \mathcal{F} \to \mathbf{C}$  :: stack について、以下の圏同値が成立する.

$$\mathcal{F}(\emptyset) \simeq \mathbf{1}$$
.

特に、 $\mathcal{F}(\emptyset)$  の対象は全て同型であり、射は同型射しかない。

(証明). category of descent data ::  $\mathcal{F}(\mathcal{U})$  の対象を考える. これは  $\mathcal{U}$  で添字付けられた対象の族の二つ組である. なので  $\mathcal{U}=\emptyset$  について, $\mathcal{F}(\emptyset)$  の対象は  $(\emptyset,\emptyset)$  しかない. 射も  $\mathcal{U}$  で添字付けられた族であるから,非自明な射は存在しない.

この補題の仮定は奇妙に見えるかも知れないが、以下の通り、このように仮定しても問題はないし、我々が扱う殆どの site はこの仮定を満たす.

#### 主張 3.4

圏  $\mathbf{C}$  の任意の対象  $U \in \mathbf{C}$  について、命題「 $\emptyset \in \mathrm{Cov}(U)$ 」は Grothendieck topology の公理(定義)と独立である。 すなわち、 $\emptyset \in \mathrm{Cov}(U)$  としてもしなくても矛盾は生じない。

(証明). 命題「 $\emptyset \in \text{Cov}(U)$ 」を P と書く. Grothendieck topology の定義を見直そう. cover of  $\emptyset$  ::  $U \in \text{Cov}(U)$  が満たすべき条件を記号で書き下す.

- (a)  $\forall [V \to U] \in \mathbf{C}/U$ ,  $[\forall [U' \to U] \in \mathcal{U}, \exists U' \times_U V] \implies \{U' \times_U V \to V \mid [U' \to U] \in \mathcal{U}\} \in \mathrm{Cov}(V)$ .
- (b)  $\forall \mathcal{V} := \{\mathcal{U}'_{U'} \mid \mathcal{U}'_{U'} \in \operatorname{Cov}(U')\}_{U' \in \mathcal{U}}, \quad \{U'' \to U' \to U \mid [U' \to U] \in \mathcal{U}, [U'' \to U'] \in \mathcal{U}'_{U'}\} \in \operatorname{Cov}(U).$

クラス X と述語 F について " $\forall x \in X$ , F(x)"という文は " $\forall x$ ,  $[x \in X \implies F(x)]$  の省略形である。したがって, $X = \emptyset$  であるとき," $\forall x \in X$ , F(x)"という文は任意の F について真。また, $\{f(x) \mid x \in \emptyset\} = \emptyset$ . なので,以上の文を  $U = \emptyset$  の場合に考えると(すなわち P を仮定すると),いずれも P と同値に成る。よって  $P \implies P$  ということになる。一方,否定 "P を仮定しても矛盾が生じないことは明らか.

#### 例 3.5

圏  $\mathbf{C}$  を  $\mathbf{Sch}$  の部分圏や  $\mathbf{Sch}/S$  (S :: scheme) とする. morphism of schemes のクラス  $\mathcal{P} \subset \mathrm{Arr}(\mathbf{C})$  をとり、以下のように  $\mathbf{C}$  上の  $\mathrm{Cov}$  を定めたとする:

$$\begin{aligned} \operatorname{Cov}(U) = & \{ \mathcal{U} \mid \mathcal{U} \text{ :: jointly surjective family and }^{\forall} \phi \in \mathcal{U}, \quad \phi \in \mathcal{P} \} \\ = & \left\{ \mathcal{U} \mid \bigsqcup_{U' \in \mathcal{U}} U' \to U \text{ :: surjective and }^{\forall} \phi, \quad [\phi \in \mathcal{U} \implies \phi \in \mathcal{P}] \right\}. \end{aligned}$$

この時,  $\bigsqcup_{U' \in \emptyset} U' = \emptyset$  なので  $\emptyset \in \text{Cov}(\emptyset)$ .

このセミナーで定義した Zariski site, etale site, ... などは全てこの主張のように定義されている.

#### 補題 3.6

圏  $\mathbf{C}$  を  $\mathbf{Sch}$  の部分圏や  $\mathbf{Sch}/S$  (S:: scheme) とする.  $U \in \mathbf{C}, \{U_i \to U\} \in \mathrm{Cov}(U)$  をとり、 $V = \bigsqcup_i U_i$  と置く.

 $\{U_i \to V\} \in \text{Cov}(V)$  と仮定する<sup>†4</sup>と  $\pi: \mathcal{F} \to \mathbf{C}$  :: stack について, 圏同値 (TODO: strict 2-equivalence?

<sup>†4</sup> 例えば、Zariski topology より細かい位相ならばこの仮定は成立する.

ここは $\epsilon$ と圏同型の合成)

$$\mathcal{F}\left(\bigsqcup_{i} U_{i}\right) \simeq \prod_{i} \mathcal{F}(U_{i})$$

が成立する.

(証明). 瑣末なことでは有るが:  $\{U_i \to V\}$  の添字について,  $i \neq j$  ならば  $U_i \neq U_j$  である, と仮定して一般性を失わない.

仮定の状況では、injection map (coprojection) ::  $U_i \to V$  についての fiber product は次のように成る.

$$U_{ij} = U_i \times_V U_j = \begin{cases} U_{ii} (\cong U_i) & (U_i = U_j) \\ \emptyset & (U_i \neq U_j). \end{cases}$$

そこで $\mathcal{U} = \{ \inf_i : U_i \to V \} (\in \operatorname{Cov}(V))$  と置くと、 $\xi \in \mathcal{F}(V)$  の $\epsilon_{\mathcal{U}} : \mathcal{F}(U) \to \mathcal{F}(\mathcal{U})$  による像は

$$\epsilon_{\mathcal{U}}(\xi) = (\{(\text{inj}_i)^* \xi\}_i, \{\text{id}_{U_{ij}}\}_{i,j})$$

となる.

 $i \neq j$  の時、 $\sigma_{ij}$  は自己同型であるから  $\mathrm{id}_\emptyset$  である。 さらに i = j の時は, $(\mathrm{pr}_i)^*(\mathrm{inj}_i)^*\xi$  と  $(\mathrm{pr}_j)^*(\mathrm{inj}_j)^*\xi$  が 完全に等しいので, $\sigma_{ij} = \mathrm{id}_{(\mathrm{inj}_i)^*\xi}$ . また,射  $\{\alpha_i\}$  に課された条件は,各  $\alpha_i$  は  $(\mathrm{inj}_i)^*\xi \to (\mathrm{inj}_i)^*\xi$  の形の任意の射の組み合わせについて成立する.

以上より,以下の関手は圏同値である.

$$\prod_{i} \mathcal{F}(U_{i}) \rightarrow \operatorname{im} \epsilon_{\mathcal{U}} (\subseteq \mathcal{F}(\{U_{i} \rightarrow V\}))$$
**Objects**:  $((\operatorname{inj}_{i})^{*}\xi)_{i} \mapsto (\{(\operatorname{inj}_{i})^{*}\xi\}_{i}, \{\operatorname{id}_{(\operatorname{inj}_{i})^{*}\xi}\}_{i \neq j} \cup \{\operatorname{id}_{U_{ii}}\}_{i})$ 
**Arrows**:  $(\alpha_{i})_{i} \mapsto \{\alpha_{i}\}_{i}$ 

 $\mathcal{F}$ :: stack なので主張にある圏同値が示せた.

定理 3.7 (Stackification of category fibered by groupoids.)

 ${\bf C}$  :: site,  ${\cal F}$  :: category fibered by groupoids over  ${\bf C}$  とする. この時,  $\bar{{\cal F}}$  :: stack in groupoids over  ${\bf C}$  と $\theta$ :  ${\cal F} \to \bar{{\cal F}}$  :: morphism of fibered category が存在し,

$$(-) \circ \theta \colon \operatorname{HOM}_{\mathbf{C}}(\bar{\mathcal{F}}, -) \to \operatorname{HOM}_{\mathbf{C}}(\mathcal{F}, -)$$

が圏同値となる.

#### 例 3.8

presheaf の stackification は sheafification と一致する.

例 3.9 (arXiv:math/0305243v1, Prop3.6)

S:: scheme,  $\mathcal{M}$ :: algebraic stack over  $\mathbf{Sch}/S$ ,  $\mathcal{G}$ :: sheaf in groups over  $\mathbf{Sch}/S$ , acting on  $\mathcal{M}$  とする. この時,  $\mathcal{M}$ の $\mathcal{G}$ による categorical quotient ::  $\mathcal{M}/\mathcal{G}$  は,以下の prestack (2-functor として定義する) ::  $\mathcal{P}$ の stackification として定義される.

Objects of  $\mathcal{P}(U)$ .  $\mathcal{M}(U)$  の対象と同じ.

Arrows of  $\mathcal{P}(U)$ .  $g \in \mathcal{G}(T)$  と  $\mathcal{M}(U)$  の射  $g * x \to y$  の組.

ただし $U \in \mathbf{Sch}/S$ は任意.

# 参考文献

- [1] Notes on grothendieck topologies, fibered categories and descent theory (version of october 2, 2008).
- [2] Martin Olsson. Algebraic Spaces and Stacks (American Mathematical Society Colloquium Publications). Amer Mathematical Society, 4 2016.